

時を超えて

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 副会長 西本豊司

今春、上野の東京国立博物館に特別展「ポンペイ」を見に行きました。紀元後79年イタリアのヴェスヴィオ山噴火により埋もれたローマ帝国の都市遺跡からの発掘品約150点です。ナポリ国立考古学博物館の協力で今年1月から12月にかけて日本国内を巡回展示するという大掛かりな企画でした。素晴らしい大理石像・ブロンズ像やモザイク画、生活・職人用金属器具など至宝の数々。全体の感想を簡単に記すと、今から2000年近くも前に何という高い技術と栄華を極めた生活をしていた人々がいたのかという驚きと、噴火当時の悲劇的な状況からは考えられないほど見事な発掘と修復・保存が成されて素晴らしい歴史遺産として現代に引き継いでくれたことへの感嘆がありました。「日本のポンペイ」とも呼ばれる群馬県の遺跡群ももっと調査・保存を進めることで、新しい驚きを現代人にもたらすことが楽しみになります。

同展では“タイムカプセル”とか現代に“タイムスリップした”と言う表現も目にとまりました。そしてこれらの言葉に歴史の中で重要な要素でもある時間の概念の妙味のようなものも感じました。人の想像力こそが離れた時間をつなげ、時間の長さを自由に伸縮させて、一般に定速で進む時間を乗り越えて歴史を再構築してみせる原動力であるように思います。

そもそも、時間の長さの受け止め方は多様で、伸縮自在の概念を用いて論じられるのが我々人類の特徴・特技なのではないでしょうか？ 広い意味の歴史は、地球～人類～考古学・世界史・日本史・近現代史・・・と時間のレベルの異なる対象を最適な尺度で論じますが、一方で異なる分野の時間の類似性を意識することも人の特技です。地球のマクロな46億年の歴史から、日本の終戦を描く『日本のいちばん長い日』（半藤一利）のミクロな一日まで、これらは全く異質な世界の話ですが、変化していく要因と背景の“なぜ”を後から考える際の時間の流れには人の思考の共通性を感じます。生物学の分野で『ゾウの時間とネズミの時間』（本川達雄）は主体が変われば時間の進み方を異なる視点で理解すべきことを気づかせてくれます。時間の基本単位を伸縮させればゾウの時間とネズミの時間が似てくるような話とも言えます。現代世界の予測であっても人類の破滅を警告する“終末時計”のように、昨今の核戦争を危惧する想像力は不気味な時間概念ですが人の感性に訴えかけます。災害の分野でも、地震や火山噴火など地質年代で理解すべき現象が最近では比較的身近なところで生じているように見えます。これは通信・報道の進化が成せる認識の結果で、短絡的な議論に陥る恐れもありますが、時には大胆な類似思考も許されて良いと思います。

そういえば、10年以上前に友の会の仲間が協力して岩槻の紹介DVDを作成しましたが、そのタイトルが“時の旅人”でした。地域巡りで時を辿る歴史を表現しようとしたのかなと思い返します。私たち人類は地質年代からすればほんの一瞬の命を与えられている一“生物体”にしか過ぎません。空間的サイズも中途半端で地球という星の表面付近をうごめいている存在ですが、時空を超えて今を生きたいなあ・・・ 真夏の夜の茫漠とした夢でした。



今後のイベントスケジュール

*申し込みは各イベントの募集要項に応じてお願いします。

ホームページ: <https://junosaitama.net/> ブログ: <https://junosaitama.seesaa.net/>

- 9月8日(木) 第1回古文書学習会
- 9月10日(土) 古道探索倶楽部(「日光道中」その7)
- 9月23日(金) まち歩きクラブ(隅田川テラス歩き 第3回)
- 9月25日(日) 古代文化を考える会(第7回「倭の五王」と日本、半島の征服)
- 10月2日(日) 講演会「ご当地武蔵武士 足立遠元のこと」
- 10月12日(水) 見学会「緑陰の北本歴史散策」
- 10月13日(木) 第2回古文書学習会
- 10月26日(水) プレミアム講座「人の一生と銘仙」

- <今号で紹介>
- <今号で紹介>
- <今号で紹介>
- <今号で紹介>
- <今号で紹介>
- <今号で紹介>
- <今号で紹介>
- <今号で紹介>

同封の「郵便はがき」でのアンケート調査にご協力ください

今年度総会でご報告した通り令和4年(2022年)12月5日より埼玉県立歴史と民俗の博物館は10ヶ月あまり大規模改修工事の為、長期休館となり、この間会報「JUNO」も休刊となります。ただし、友の会の活動は各クラブや見学会、外部施設を使った講座などこの間も実施いたします。これらの催事の案内と受付については「Eメール」と友の会ホームページからの「送信フォーム」を活用したいと思えます。イメージは下記の通りです。

催事案内記事をホームページ掲載

↓
Eメール登録者に掲載したことを連絡(登録会員全員にEメールを送信します)

↓
ホームページ参加申込サイトの「送信フォーム」より申込・受付

* ネット利用されない方

印刷物案内希望登録(有料)で、催事案内印刷物を送付→「はがき」で申込・受付


以上のシステムを実施するための調査としてアンケートを行います。同封の「郵便はがき」の質問に回答の上、8月30日までに返送願います。休館中はもとより今後も会員と友の会の連絡・通信の効率化と正確化のために役立ちます。ご協力のほどお願いします。

*このはがきアンケートの【Q4】に記載されている「印刷物での有料の案内」は、博物館が長期休館の間に限っての活動になります。登録されたEメールはその後も会員との通信に利用します。

*Eメールの記入・入力は正確をお願いします(確認ができません)。9月初旬に登録された会員全員にEメールでの連絡を行います。届かない場合は連絡Eメールの誤りの可能性があります。再度ご連絡ください。

◆ネット上で友の会のホームページや行事参加連絡用のフォームを見る方法◆

問い合わせがありますので、インターネットで友の会のホームページや行事参加連絡用のフォームあるいは友の会ブログを見る方法についてお知らせします。

①パソコンの場合 お使いのどのブラウザでもGOOGLEその他の検索ボックスに「junosaitama」(小文字です)と入れて検索します。「埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 junosaitama」のリンクが出るとお思いますのでクリックしてください。右図の画面が出ます。送信フォームはこの中の  マークの付いたリンクをクリックすると左のフォーム画面が表示されます。会員番号や氏名を入れてから「確認」ボタンを押し、確認後、送信してください。「送信が成功しました」と画面に出た場合は登録されています。登録を確認するには、ホームページ上部の「●友の会への参加申込・連絡状況」リンクをご覧ください。



②スマホの場合 パソコンと同じ検索もできますが、もっと簡単に接続するには内蔵のカメラでこのページの上部に印刷されている「QRコード」を読み取ってください。ホームページが表示されます。画面を大きくしてご覧ください。操作方法はパソコンの場合と同じです。

活動報告

プレミアム講座「中世城館の見方・歩き方」 7月1日に開催 70名参加

本年度最初のプレミアム講座は、県内に残る特色ある中世城館の比企城館跡群と鉢形城跡を対象に堀口智彦学芸員から現地見学にも役立つ楽しいお話を伺いました。70の方が熱心に聴講しました。

県内に所在する国史跡の城館跡の中で15～16世紀の遺構は、周辺地形を利用して土塁や堀などを構築したいわゆる山城にあたります。4つの比企城館跡群（菅谷館跡、松山城、小倉城、杉山城）と鉢形城は、それぞれに戦国時代の戦乱の最前線となってきた歴史的特徴を持つとともに、遺構が良好に保存され、城館の構造を知る多くの情報を知ることができ、史跡としての価値が高いものです。（西本記 詳しくはブログで）



デーノタメ遺跡・講演会と出土品見学会開催 2022年 7月10日に開催



文化庁・当館主催の「発掘された日本列島2022」の開催に合わせ、友の会では近年話題になった埼玉県内の発掘事業から北本市の「デーノタメ遺跡」について、北本市教育委員会のご協力を得て講演会と出土品の見学会を開催しました。

7月10日（日）は当館講堂において北本市教委文化財保護課でこの遺跡の発掘を陣頭に立って作業された坂田敏行主査より、この遺跡の価値・特徴についてお話しいただきました。「デーノタメ遺跡」の最大の特徴は集落と集落が利用していた水場がセットで遺っていたことです。台地上では縄文中期の関東最大級の環状集落とそれに続く後期の集落も発掘され、この地が1200年続いた縄文のムラだったことがわかりました。「デーノタメ遺跡」は内陸部での豊かな生活実態を伝える貴重な遺跡です。都市化が進む県央部の貴重な遺跡が将来指定史跡として保存活用されることを願っています。講演会参加81名でした。（中村 記 詳しくはブログで）

「古代文化を考える会」第6回 7月24日に開催 48名参加

【第6回「倭国と伊都国王権、狗奴国の戦い」から阿智王の渡来まで】 卑弥呼「共立」という言葉の意味や「景初二年」問題、「邪馬壹国」（臺ではない）とする理由など倭人伝で使われている言葉の意味するところを詳細に説明いただいた。266年、壹與は掖邪狗等二十人を遣わし、張政等が還るのを送る。ここで『三国志』「倭人伝」は終わり、倭国も壹與もその後の中国史書には登場しない。僅かに『契丹古伝』に記載があるのみである。「倭国」に戦勝した「狗奴国」（前身は倭奴国、=熊襲）は北部九州を支配するようになる。しかし364年には中国東北部から渡来した神功皇后（息長帯日売命、「多羅氏」）が「熊襲征伐」をして「貴国」を樹立する。領域は「熊襲征伐ルート」の範囲、筑前と肥前である。貴国は「好太王碑」に391年に「倭が海を渡り、百済や新羅を臣民にした」とあるほどの強国であったが日本史に「貴国」はない（410年頃滅びる）。また神武天皇の東征の実態とルート、崇神天皇（夫餘氏、285年頃に渡来し、318年に死去四道將軍を派遣して日本列島を支配した最初の大王）の王権の興亡など内容豊富であった。（斉藤 記）



今後の募集・予定

◆第34回古道を訪ねて 日光道中その7◆

2022(令和4年)年9月10日(土)に「古道探索倶楽部」

《日時》2022年(令和4年)9月10日(土) 集合9時30分～解散15時30分(予定)

《集合》東武伊勢崎線幸手駅改札口周辺 9:30

《コース》東武伊勢崎線幸手駅→幸手宿→萬福寺→幸宮神社→聖福寺→正福寺→八幡神社・一里塚
→真光寺→焙烙地藏→浄信寺→顕正寺→深広寺→八坂神社→栗橋駅解散

《費用》資料代等・参加費 500円

《その他》歩行距離は約10km、史跡巡りを入れると11km少々です。弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。

《問合せ先》前日まで犬走(いぬばしり) 048-756-5634 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017

《参加申込み》①友の会ホームページより申込 ②9月2日(金)までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて

*日光道中歴史散策は、東武伊勢崎線竹ノ塚駅より栗橋駅までを7回シリーズで、お届けしてまいりましたが、今回をもって終了となります。次回からは、中山道を十二回シリーズで計画中です。ご期待ください。

◆隅田川テラス歩き—13の橋と文化景観（その3）◆

2022年(令和4年)9月23日(金)に「まち歩きクラブ」

《日時》2022年(令和4年)9月23日(金・祝) 10時00分～15時00分頃

《集合》地下鉄日比谷線・人形町駅のA3出口・地上側(道路上) 午前10時 雨天中止

《費用》交通費は各自負担。保険と参加費用:300円

《概要》隅田川テラス歩きの最後となる第3回目。隅田川大橋から永代橋、佃大橋を通り勝鬨橋まで歩きます。いよいよ海の香りが漂う臨海地区に入ります。川面から高層ビル群が聳える現代的な景観も見どころですが、佃島の驚くべき移り変わりや見逃しそうな小さな川の貴重な橋、隅田川唯一の中の島公園、その先の船の重要文化財・明治丸など様々なお宝を見学します。今回も昼食の用意をお願いします。

《行程》人形町通り→隅田川大橋→永代橋★→豊海橋☆(日本橋川)→南高橋☆(亀嶋川)→中央大橋→佃島(住吉神社)→相生橋→中の島公園→明治丸(★)記念館(見学)→(昼食休憩)→佃大橋→波除神社→勝鬨橋★→大江戸線・勝どき駅解散予定→オプション(築地大橋=隅田川最新橋)(★国文化財 ☆区文化財)

《申込・問合せ》①友の会ホームページの「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。

②Eメール(筑井):pu8n-tki@asahi-net.or.jp 問い合わせ電話:090-1990-4807

新しい視点で学ぶ日本の古代史

9月25日(日)に「古代文化を考える会(第7回)」

《日時》2022年(令和4年)9月25日(日) 13時00分～16時00分

《場所》当館講堂 東武アーバンパークライン(東武野田線)大宮公園駅下車

《テーマ》特別講演 「倭の五王」と日本、半島の征服

410年頃から531年にかけて日本列島を統括した「倭王権(倭の五王)」についてお話しいたします。倭城から「讚・珍」が筑後に渡来して「倭の五王」の「倭国」を樹立する。390年頃である。『宋書』に見る「倭王武」の上表文によれば、478年迄には日本列島及び朝鮮半島まで支配する。日本列島を統一した最初の「王権」であるが、531年(辛亥年)の「磐井の乱」で物部麁鹿火に伐たれて衰退し、その後消滅する。定説は「獲加多支鹵大王=倭王武=雄略天皇」とするが、雄略天皇の崩年は479年(古事記:489年)、「倭王武」は502年に梁に朝貢もしている。雄略天皇≠「倭王武」である。また辛亥年に継体天皇が物部麁鹿火を派遣して「筑紫国造」を伐つということは継体天皇の崩年が527年でありそれはない。「磐井の乱」は臣下の麁鹿火が主君「筑紫君(倭王葛)」を伐った下剋上である。また「倭王興・武」と金錯銘鉄剣及び稲荷山古墳との関連を説く伝説は大変興味深く、聞き逃さない。

《講師》佃 收 先生

《費用》資料代(当日配布)として500円、本代(早わかり「日本通史」)1,000円

《申込》参加を希望される方は、①「友の会ホームページ」より送信フォームで。②「普通ハガキ」(「埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会—「古代文化を考える会」—宛て)会員番号・氏名・住所・電話番号を明記)によりお申し込みください。【締切期日:9月15日】

申し込み多数の場合(現定員81名)は抽選とさせていただきます。抽選に漏れた方に対してのみ別途ご連絡させていただきます。《問合せ先》齊藤 048-853-6728

友の会見学会 緑陰の北本歴史散策

7月15日

雨天中止復活企画

10月12日(水)に開催

北本市の西部には鎌倉街道と伝わる古街道が通っています。街道沿いには中世の城館跡や寺院などの史跡が数多く残り、現在は自然観察公園として豊かな緑に囲まれ、歴史と自然を楽しめるコースとなっています。

《日時》令和4年(2022年)10月12日(水)一雨天中止一

《集合》北本駅西口ロータリー(友の会黄色旗目印)午前9時(時間厳守)

《参加費》300円(保険・資料代他)交通費各自負担 先着順 20名迄

《申込み方法》

A・別途ホームページ申込フォームから

B・往復はがきに会員番号・氏名・住所・電話番号・イベント名を明記、「〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。締切 9月21日(水)必着

《行程》北本駅西口バス停-(バス)-蒲ザクラ入口下車-古道歴史散策(徒歩行程約3K)-北里大学メディカルセンターバス停-(バス)-JR北本駅(13時頃)

《主な見学史跡》東光寺境内 蒲ザクラ((国指定天然記念物))板石塔婆群収蔵庫内見学 徳川将軍家鷹狩御茶屋御殿跡 戦国時代の要衝・石戸城跡 北本自然観察公園散策など

案内は当会常任理事 寺内(石仏協会会員)山本(大宮郷土史研究会会員)が担当します。

《連絡》山本 090-5526-0848

古文書に興味ある皆さんへ

大宮の氷川神社元神主岩井家文書

『岩井家舊記大集』 解説

学習会へのお誘い！



第1回古文書学習会

日時：2022年9月8日（木）午後1時30分～3時30分
毎月第2木曜日を予定

場所：さいたま市民会館おおみや6F 集会室9
JR大宮駅東口徒歩3分 裏面の地図参照

費用：会場費300円・資料印刷代500円（今回）

第2回古文書学習会

日時：2022年10月13日（木）午後1時30分～3時30分

場所：さいたま市民会館おおみや6F 集会室9

費用：会場費300円

応募対象：古文書学習に興味のある方ならどなたでも

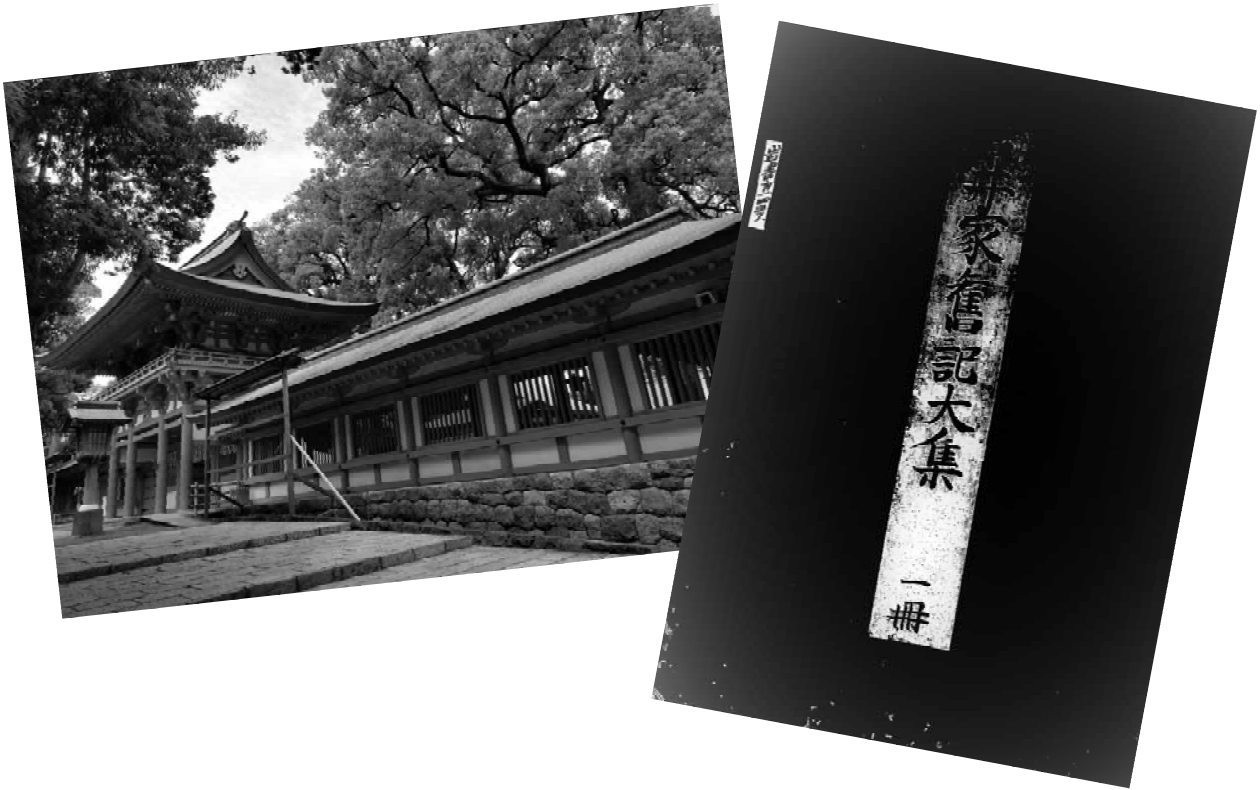
申込方法：①友の会ホームページの「申込フォーム」から

②ハガキ 友の会会員番号・氏名・メールアドレス・住所・
電話番号・第〇回学習会参加と明記し

〒337-0042 さいたま市見沼区南中野1183-10

齊藤文孝宛

（仮）世話人：齊藤文孝・滝沢修・吉田和夫 他 世話人募集中
共催：埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会・大宮郷土史研究会

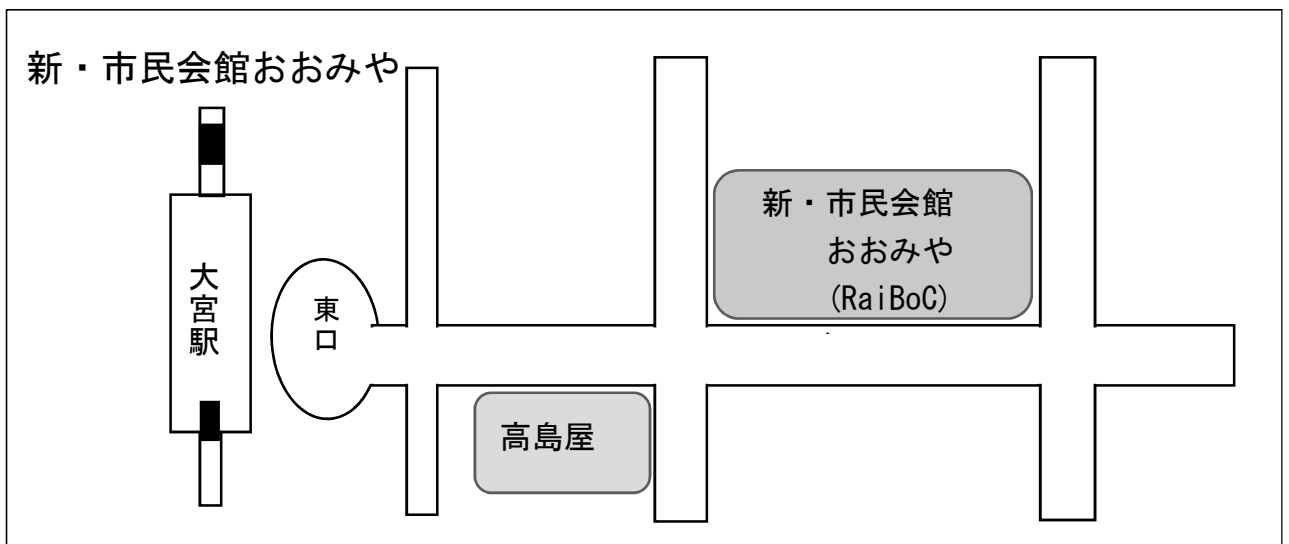


◆江戸時代大宮の氷川神社は、武蔵国一宮として朱印地三百石の寄進をうけ、多くの参詣者で賑わったと言われています。

◆大宮の氷川神社には、男体社・女体社・火王子社三社それぞれに岩井家・(東)角井家・(西)角井家の神主がおり、神社経営や祭祀などは三神主による調整によって運営がなされてきました。そのため朱印地三百石の配分をはじめ、祭礼に伴う祈禱などが神主家にとっては重要な事項となりました。それにより種々の事案について三神主がそれぞれ、丁寧な記録を残すことになりました。その結果、それらの文書を通して私たちは、当時の大宮の氷川神社の姿を豊かに知ることができます。

◆今回は、埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会前会長の岩井隆興氏のご厚意により『岩井家舊記大集』の解説学習会の機会を得ることができました。当時の文書を読むことによって大宮氷川神社の歴史の掘り下げだけでなく、人々の暮らしの息遣いなどが読み取れたらうれしい限りです。

◆また、講座の始まりに、氷川神社の特別展の図録などに引用されている簡単な文書や書状の解説練習も行い、古文書から長く離れていた方に古文書を思い出して頂きます。



人の一生と銘仙

日常着から晴れ着までどんな場面で使われた？ 民俗資料から読み解く

明治以降の埼玉県内では秩父を中心に銘仙が主要な産業となっていき、人々の生活に密接に関わるモノにもなりました。出産、お宮参り、七五三、十三参りなど人生の節目で重宝がられる装いとして引き立て役を演じた晴れ着としてだけでなく、日常の普段着として活用された例や、戦時中のモンペとしての利用など多くの使われ方を民俗資料から読み解くことができます。具体的な実例を知って着物から人の一生を振り返る講座を期待します。

講師の町田さんのご専門は民俗学(生業)。昨年度は企画展「お茶を楽しむ」、今年度は企画展「銘仙」を担当されています。常設展示室第10室(民俗)の展示・管理や民俗関係のイベントも引き続きご担当です。

講師 **町田 歩未 氏** 当館学芸員

日時 令和4年(2022年)10月26日(水) 13時30分～14時30分
(開場：13時)

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 無料

申込方法

- ① 友の会ホームページの「申込フォーム」からご応募ください
(申込情報の表示リストからご自分の登録番号をご確認ください)
- ② 往復はがきに 会員番号・氏名・住所・電話番号・イベント名を明記、返信面にも住所・氏名を記入し、「〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。当日は返信ハガキをお持ちください

締切 令和4年(2022年)10月17日(月)必着

コロナ禍3密防止のため定員に制限があります。応募が定員を超えた場合は抽選により参加者を決め、10月21日(金)までに メール、電話または返信ハガキで連絡します。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

ご当地武蔵武士
足立遠元のこと

—大河ドラマをもっと楽しむために・第2弾—

ひとり、またひとりと姿を消してゆく鎌倉殿の13人。そのなかにあって失脚することもなく幕府の要人として天寿を全うした足立遠元とはどんな人物だったのでしょうか。ドラマの中では「一徹者」ゆえに登用されたと描かれています。

遠元館跡と伝わる地を三か所も持つ桶川市から講師をお招きし、その実像に迫ります。

講師 藤沼 昌泰 氏

(桶川市文化財課主席主幹兼桶川市歴史民俗資料館副館長)

日時 令和4年10月2日(日)午後1時30分～3時

場所 当館講堂 (東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分)

参加費 300円 友の会会員限定 定員80名

お申込み方法

- ① 友の会ホームページの「申込フォーム」からご応募ください。
- ② 往復はがきに 氏名・住所・電話番号・イベント名・会員番号を明記、返信面に住所・氏名を記入し「〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。当日は返信葉書をお持ち下さい

締切 令和4年9月15日(火)

コロナ禍3密防止の為定員に制限が有ります。応募が定員を超えた場合は抽選により参加者を決め9月20日(火)までに返信葉書かホームページで連絡します。

当日はコロナ感染防止の入館ルールに従ってご来場ください

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会